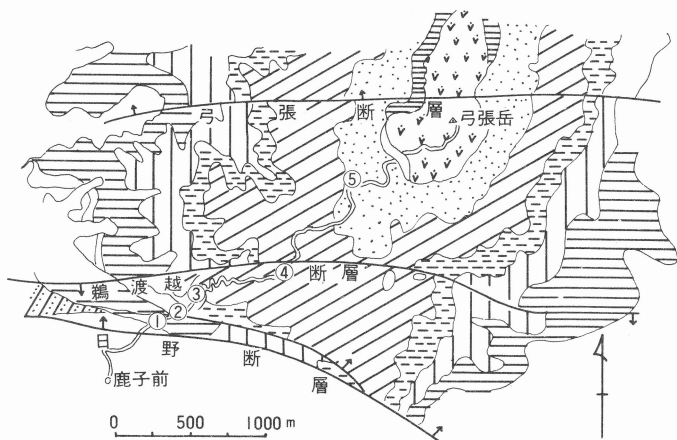


## 37. 弓張岳の地質

地域	佐世保市日野鹿子前入口——弓張岳山頂
交通	西肥バス 相浦行, 鹿子前入口下車
地形図	佐世保 (1/50,000), 佐世保北部・佐世保南部 (1/25,000)

鹿子前入口から弓張岳山頂へ向って、立派に舗装された観光道路が、山あいを縫って延々と続いている。下りの一方通行路で、時折、観光バスや自家用車等が下りて来るのに出合う。沿道の崖は全部露頭といって良く、佐世保層群の下部相浦層の中部層から上部層が層序順に見える絶好の巡検地といえる。相浦層は、新第三紀中新世の佐世保層群の中～最下部に位置し、古第三紀漸新世の杵島層群を不整合におおっている。本地域に露出している相浦層は、堆積条件（<sup>りんね</sup>輪廻）に従って、下部から尼濁亜層、鹿子前亜層および但馬岳亜層に分類され、さらに柱状図に見られるような各岩層に分類されている。鹿子前入口から 100m 程歩いて、観光道路の左側の崖の地点①で相浦層下部、鹿子前亜層中の日野砂岩けつ岩層がわずかに露出している。さらに 100m 程進むと②で、日野断層にほぼ平行な小断層の破砕帯に出合う。本層から上部は、金比羅砂岩層をへて、厚い金比羅砂岩けつ岩互層の露出が続く。③の場所ではみごとな砂管（サンドパイプ）が露出している。大きいものでは直径 5 cm, 長さ 40cm におよぶ円筒形のものもある。③から④の行程 500m の間は、塊状の中粒砂岩を主とし、泥岩の薄層をはさみ、局部的にれき岩をはさんだ、<sup>しま</sup>縞状砂岩・板状砂岩が発達している。本層は下部から中部にかけて 10° 内外の緩傾斜で、およそ 150m の層厚を有し、この中には、<sup>まさる</sup>真申化石帯の名で呼ばれる海生二枚貝化石の密集帯がある。



弓張岳周辺地質図

凡 例

第四系	沖積層	但馬相浦層
	玄武岩質溶岩	
第三系	洪積層	鹿子前垂層
	柚木層	
	中里層	
	鵜渡越砂岩層	
	金比羅岳砂岩互層(上)	
	金比羅砂岩層	
	日野砂岩層	
石岳砂岩層		

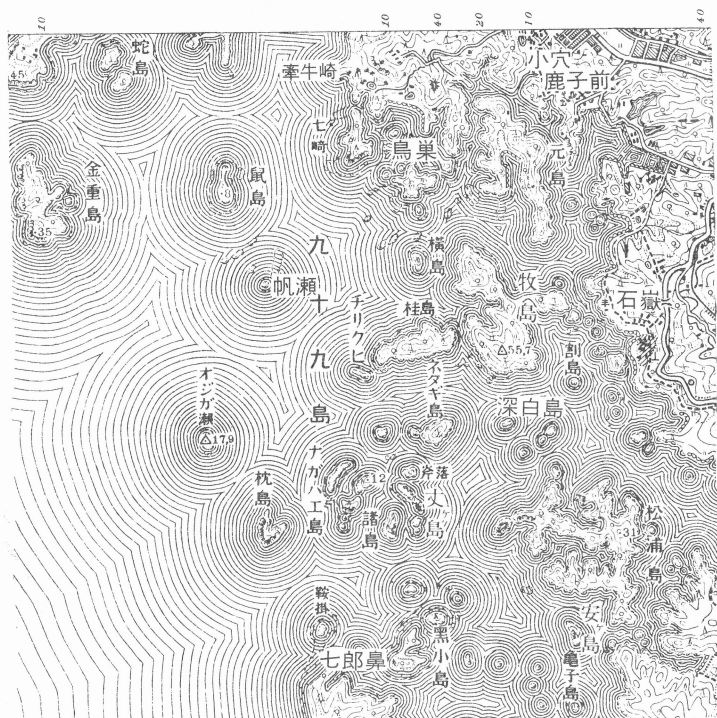
本道路ぞいでは、④の地点で二枚貝の化石が採集できる。本層中に含まれる主な化石に、次のものがある。巻貝では *Batillaria* sp. *Polinices* sp, *Nassa denselineata* などがあ、二枚貝では *Glycymeris cisshuensis*, *Ostrea* sp., *Venericardia subnipponica*, *Pitar* cfr. *ashiyaensis*, *Callista* sp.

などがある。⑤の地点では厚い砂岩の層が崖をつくり、偽層が発達し、堆積当時のげいしい水流の動きがしのばれる。本層は鵜渡越砂岩層に属し、厚さ 120m の層厚で、

鵜渡越付近によく発達している。灰白色細粒—粗粒砂岩を主とし、けつ岩を従とする。よく崖を形成し、時にれき質の部分もみられる。

鵜渡越のバス停付近から弓張岳山頂までは、玄武岩質の火山岩類でおおわれ、標本を取って見ると、黒色、緻密で、粗粒のかんらん石

を含んでいる。時に集塊岩をともない、赤く焼けたような凝灰質  
 土壌も見られる。本地域の玄武岩流は、数回にわたって流出した事  
 が知られている。山頂から東方に佐世保市全景が一目で見渡せ、西  
 方に北松、相浦地域が広がり、九十九島が一望のもとに見渡せる絶  
 景の場所で、観光客が絶えない。(塩口 登)



九十九島の地形図